ハードウェアリファレンス

- シリアル インターフェイス （1 ページ）
- イーサネット インターフェイス（NIC） （1 ページ）
- 仮想 NIC を物理 NIC インターフェイスに割り当て （1 ページ）

シリアル インターフェイス

VM Expressway には物理シリアルインターフェイスはありません。シリアルインターフェイスには VM ゲストの [コンソール（Console）] タブを使用してアクセスできます。

コンソールウィンドウ（[vSphereクライアント（vSphere Client ）] ウィンドウの右下隅で識別される）を閉じるには、CTRL+ALT を使用します。

イーサネット インターフェイス（NIC）

VM Expressway では、LAN インターフェイスは仮想 NIC です。VM Expressway のインストール時に、適切なドライバが設定されます。IP アドレスの構成は標準 Expressway インターフェイスを介して実行されます。

VM Expressway で次の 3 つの仮想 NIC が割り当てられます。

- 最初のは標準 LAN 1 インターフェイス用に使用
- 2 番目は、デュアル ネットワーク インターフェイスが有効な場合に使用（LAN 2）
- 3 番目は将来の使用のために予約

仮想 NIC を物理 NIC インターフェイスに割り当て

仮想 NIC は、次のように物理インターフェイスに割り当てることができます。

ステップ 1 VM ホスト上の物理 NIC が接続されておらず、動作中でないことを確認します。

ステップ 2 各物理 NIC 用の仮想スイッチ（vNetwork Distributed Switches）を設定するか、既存のスイッチがあることを確認します。（VM Expressway を実行するホストを選択し、**[構成（Configuration）]** タブの **[ネットワーキング（Networking）]** を選択します。）

ステップ 3 関連付けられた VLAN ID を持つ仮想マシン ポート グループが、各物理 NIC につき、少なくとも 1 つ設定されていることを確認します。

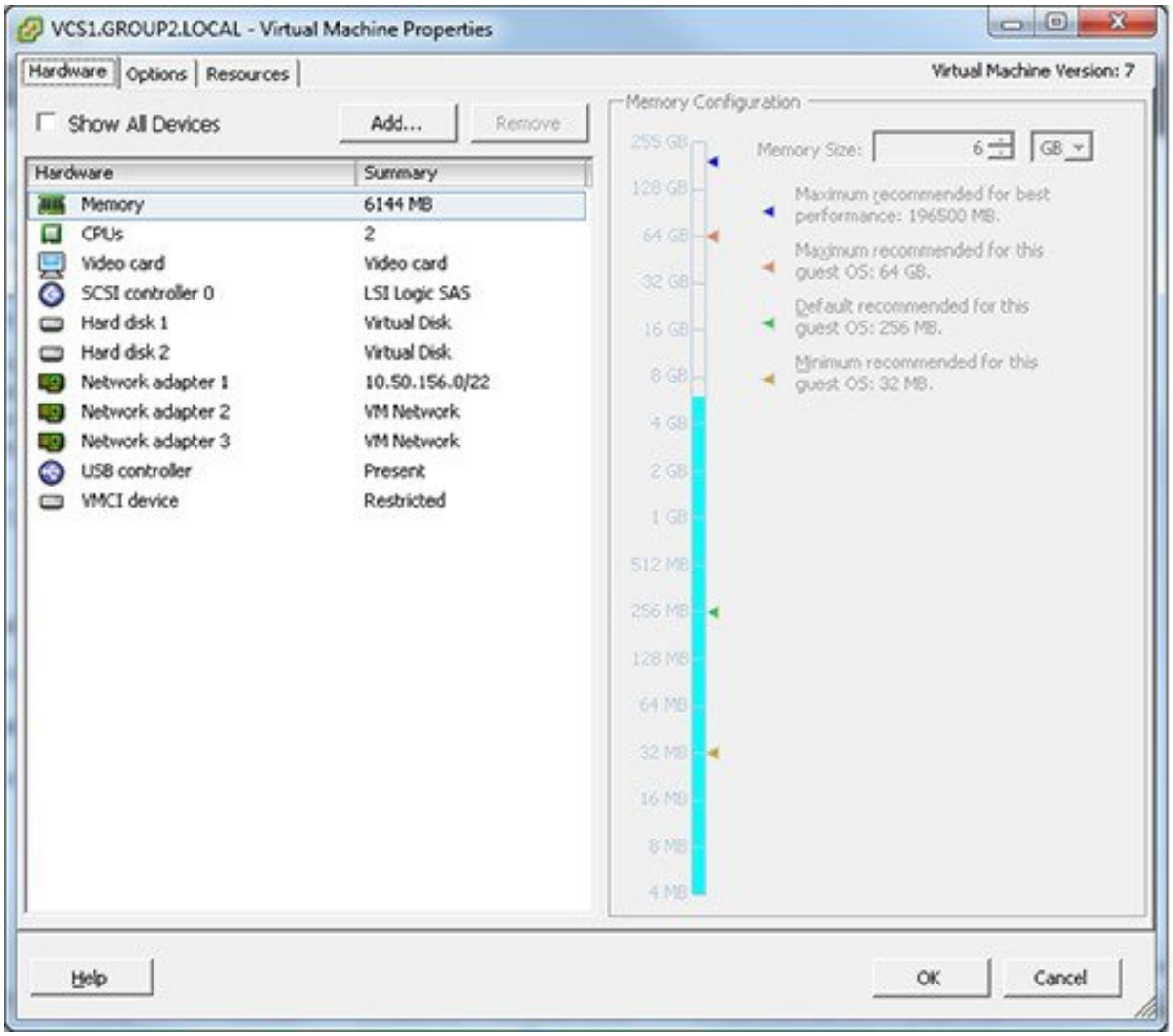
a) 新しい仮想マシンポートグループを追加するには、適切な仮想スイッチまたは vNetwork Distributed Switch で **[プロパティ（Properties）]** をクリックします。

b) ネットワーク ウィザードの指示に従います。

ステップ 4 目的の NIC に接続する仮想マシン ポート グループの名前に注意します。

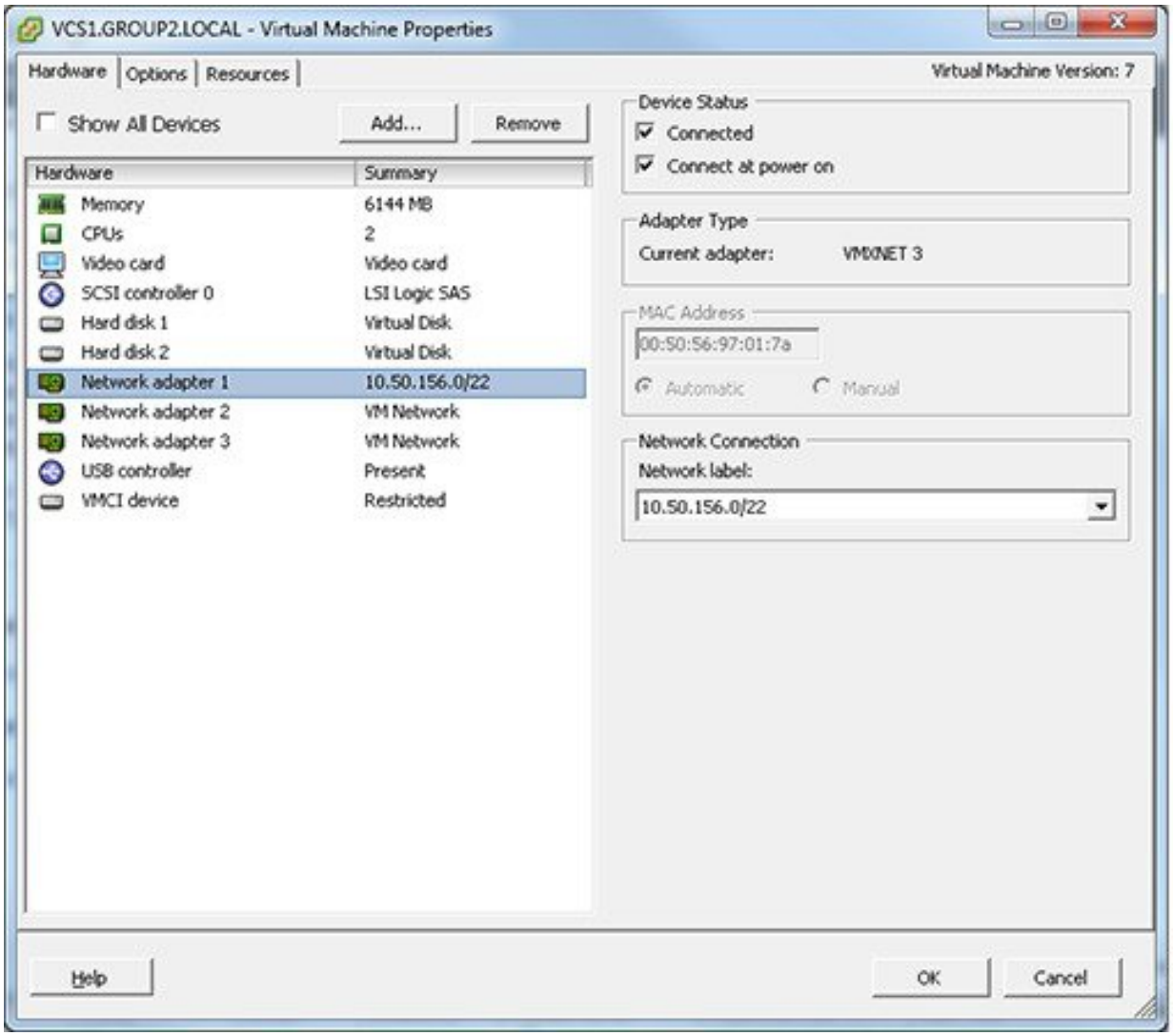
ステップ 5 VM ゲストを選択し、それを右クリックし、**[設定の編集…（Edit Settings…）]** を選択します。

図 *1*：設定を編集



ステップ 6 目的のネットワーク アダプタを選択します（ネットワーク アダプタ 1 = LAN 1、ネットワーク アダプタ 2 = LAN 2）。

図 *2*:ネットワークアダプタの選択



ステップ 7 目的のネットワークラベル（仮想マシン ポートグループ）を選択し、 Expressway LAN インターフェイスを目的の物理 NIC と関連付けます。

ステップ 8 数秒後に、Expressway は物理インターフェイスを介して通信できるようになります。

翻訳について
このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。